

論	述	の	対	象	と	な	る	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	は	、	大	手	通	信	会	社	A	社	
の	工	事	管	理	シ	ス	テ	ム	の	開	発	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	で	あ	る	。	メ	イ	ン
フ	レ	ー	ム	で	あ	る	現	行	シ	ス	テ	ム	を	仮	想	化	技	術	と	G	U	I	を	用
い	た	シ	ス	テ	ム	に	リ	プ	レ	ー	ス	す	る	。	S	I	e	r	の	B	社	は	、	本
プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	を	請	負	、	私	が	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	マ	ネ	ー	ジ	ャ	ー	と
し	て	参	画	す	る	。																		
本	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	特	徴	は	、	第	一	に	高	い	ユ	ー	ザ	ビ	リ	テ	ィ	
が	求	め	ら	れ	る	点	で	あ	る	。	こ	の	シ	ス	テ	ム	を	使	用	す	る	の	は	、
A	社	担	当	者	と	そ	の	協	力	工	事	会	社	の	C	社	担	当	者	で	あ	る	。	
A	社	と	C	社	は	、	今	回	リ	プ	レ	ー	ス	対	象	と	な	っ	て	い	る	シ	ス	テ
ム	を	利	用	し	て	、	互	い	に	工	事	の	進	捗	を	管	理	し	て	お	り	、	シ	ス
テ	ム	の	操	作	方	法	に	手	間	取	る	こ	と	が	多	い	と	工	事	進	捗	に	多	大
な	影	響	を	与	え	る	。	さ	ら	に	、	こ	の	開	発	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	に	C	社
は	参	画	し	な	い	た	め	、	誰	で	も	迷	う	こ	と	な	く	操	作	で	き	る	高	い
ユ	ー	ザ	ビ	リ	テ	ィ	を	確	保	す	る	た	め	の	設	計	が	求	め	ら	れ	る	。	
第	二	に	、	本	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	開	発	メ	ン	バ	ー	の	約	半	数	が	開	発	

経	験	3	年	未	満	の	若	手	で	あ	る	と	い	う	点	で	あ	る	。	彼	ら	は	高	い
ユ	ー	ザ	ビ	リ	テ	ィ	が	求	め	ら	れ	る	シ	ス	テ	ム	を	開	発	し	た	経	験	が
乏	し	い	た	め	、	未	経	験	者	で	も	高	い	ユ	ー	ザ	ビ	リ	テ	ィ	を	実	現	す
る	シ	ス	テ	ム	設	計	が	行	え	る	よ	う	な	考	慮	が	必	要	で	あ	る	。		
	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	開	発	期	間	は	2	4	ヶ	月	で	あ	り	、	外	部	設	計	か
ら	総	合	テ	ス	ト	ま	で	請	負	契	約	で	行	う	。									
	シ	ス	テ	ム	の	主	要	な	品	質	目	標	は	、	「	C	社	担	当	者	か	ら	の	操
作	方	法	に	関	す	る	ク	レ	ー	ム	を	年	5	0	件	以	下	」	と	し	た	。	こ	れ
は	、	C	社	担	当	者	の	中	に	は	G	U	I	操	作	に	慣	れ	て	い	な	い	方	が
お	り	、	リ	プ	レ	ー	ス	後	の	シ	ス	テ	ム	の	操	作	方	法	が	複	雑	に	な	る
と	C	社	か	ら	の	操	作	方	法	に	関	す	る	問	い	合	わ	せ	が	多	数	発	生	す
る	可	能	性	が	あ	る	。	C	社	か	ら	の	問	い	合	わ	せ	は	、	A	社	担	当	者
が	対	応	す	る	が	、	A	社	担	当	者	は	問	い	合	わ	せ	対	応	専	任	で	は	な
く	、	こ	れ	ま	で	の	実	績	か	ら	、	年	5	0	件	を	超	え	る	問	い	合	わ	せ
が	あ	っ	た	場	合	、	そ	の	他	の	業	務	に	支	障	が	出	て	く	る	こ	と	が	予
想	さ	れ	る	た	め	で	あ	る	。															

	品	質	を	作	り	こ	む	施	策	と	し	て	計	画	し	た	こ	と	は	、	開	発	者	側
で	設	計	す	る	際	に	疑	問	を	感	じ	た	点	は	、	そ	の	都	度	書	面	で	確	認
す	る	こ	と	。	そ	し	て	、	確	認	し	た	内	容	は	関	係	者	へ	回	付	す	る	フ
ロ	ー	を	作	成	し	、	徹	底	さ	せ	た	こ	と	で	あ	る	。	な	ぜ	な	ら	こ	れ	ま
で	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	経	験	か	ら	、	設	計	段	階	で	品	質	低	下	を	招
く	原	因	と	し	て	、	ユ	ー	ザ	側	と	開	発	者	側	で	の	思	い	違	い	が	挙	げ
ら	れ	る	た	め	で	あ	る	。	開	発	者	側	が	勝	手	な	思	い	込	み	で	設	計	
し	、	あ	と	か	ら	手	戻	り	が	発	生	す	る	こ	と	も	懸	念	さ	れ	る	。	こ	れ
ら	を	未	然	に	防	ぐ	た	め	に	前	記	の	フ	ロ	ー	を	確	立	し	た	。			
	ま	た	、	品	質	を	確	認	す	る	活	動	と	し	て	、	成	果	物	の	レ	ビ	ュ	ー
を	多	く	実	施	し	た	。	具	体	的	に	は	、	イ	ン	ス	ペ	ク	シ	ョ	ン	を	行	う
前	に	、	設	計	書	作	成	段	階	か	ら	ウ	オ	ー	ク	ス	ル	ー	や	プ	レ	ビ	ュ	ー
を	処	理	単	位	で	開	催	し	、	ユ	ー	ザ	と	開	発	者	間	に	思	い	違	い	が	発
生	し	て	い	な	い	か	、	ま	た	は	確	認	し	た	疑	問	点	が	ユ	ー	ザ	の	意	図
し	た	も	の	に	な	っ	て	い	る	か	を	確	認	し	た	。	こ	の	活	動	に	よ	り	、
こ	れ	ま	で	は	イ	ン	ス	ペ	ク	シ	ョ	ン	で	指	摘	さ	れ	て	い	た	点	が	、	プ

レ	レ	ビ	ュ	ー	や	ウ	オ	ー	ク	ス	ル	ー	で	指	摘	で	き	、	設	計	書	作	成	の
手	戻	り	を	最	小	限	に	と	ど	め	る	こ	と	が	で	き	た	。						
	こ	れ	ら	の	活	動	を	通	じ	て	察	知	し	た	こ	と	は	、	ユ	ー	ザ	で	あ	る
A	社	担	当	者	は	、	も	う	ひ	と	つ	の	ユ	ー	ザ	で	あ	る	C	社	の	業	務	フ
ロ	ー	を	す	べ	て	把	握	し	て	い	る	わ	け	で	は	な	い	と	い	う	点	で	あ	
る	。	も	ち	ろ	ん	、	大	ま	か	な	業	務	フ	ロ	ー	は	把	握	し	て	い	る	が	、
細	か	な	点	や	C	社	内	の	業	務	フ	ロ	ー	ま	で	把	握	で	き	て	い	る	と	は
言	え	な	い	。	こ	の	た	め	、	A	社	担	当	者	が	レ	ビ	ュ	ー	し	た	内	容	で
あ	っ	て	も	、	そ	の	確	認	が	不	十	分	で	、	リ	プ	レ	ー	ス	後	の	シ	ス	テ
ム	に	対	し	て	C	社	担	当	者	か	ら	の	問	い	合	わ	せ	が	多	数	寄	せ	ら	れ
る	こ	と	も	考	え	ら	れ	る	と	い	う	問	題	が	あ	る	。	ま	た	、	リ	プ	レ	ー
ス	す	る	シ	ス	テ	ム	の	中	に	は	A	社	は	関	与	せ	ず	、	C	社	の	み	が	使
用	す	る	機	能	が	存	在	す	る	。	今	回	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	は	、	現	行	シ
ス	テ	ム	の	リ	プ	レ	ー	ス	の	た	め	、	現	行	シ	ス	テ	ム	の	動	き	を	踏	襲
す	る	よ	う	に	開	発	す	る	が	、	A	社	担	当	者	で	は	表	面	上	の	処	理	し
か	レ	ビ	ュ	ー	で	き	な	い	。	こ	の	た	め	、	A	社	担	当	者	や	開	発	者	側



察	知	し	た	問	題	点	に	対	し	て	、	2	つ	の	改	善	策	を	実	施	し	た	。	
一	つ	は	B	社	内	に	お	い	て	、	現	行	シ	ス	テ	ム	の	開	発	に	参	画	し	
た	D	氏	に	「	レ	ビ	ュ	ー	へ	の	参	加	」	を	依	頼	し	た	こ	と	。	現	在	、
D	氏	は	現	行	シ	ス	テ	ム	の	保	守	作	業	を	担	当	し	て	お	り	、	現	行	シ
ス	テ	ム	の	処	理	に	精	通	し	て	い	る	。	こ	の	た	め	開	発	者	が	認	識	し
て	い	な	い	内	部	処	理	に	つ	い	て	の	誤	り	な	ど	を	指	摘	す	る	こ	と	が
で	き	た	。	ま	た	設	計	書	に	対	応	す	る	テ	ス	ト	仕	様	書	、	テ	ス	ト	
ケ	ー	ス	な	ど	の	作	成	に	お	い	て	も	、	現	行	シ	ス	テ	ム	開	発	時	の	テ
ス	ト	シ	ナ	リ	オ	や	テ	ス	ト	デ	ー	タ	提	示	を	い	た	だ	き	、	品	質	向	上
に	役	立	っ	た	。																			
も	う	一	つ	の	改	善	策	は	、	A	社	に	C	社	業	務	に	精	通	し	て	い	る	
E	氏	を	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	へ	の	参	画	さ	せ	る	よ	う	依	頼	し	た	こ	と	で
あ	る	。	E	氏	は	C	社	担	当	者	に	直	接	問	い	合	わ	せ	す	る	こ	と	が	で
き	る	人	脈	を	持	っ	て	い	る	。	E	氏	の	参	画	で	、	C	社	の	業	務	の	流
れ	が	把	握	で	き	る	よ	う	に	な	り	、	そ	れ	ま	で	認	識	で	き	な	か	っ	た
設	計	上	の	不	具	合	を	い	く	つ	か	修	正	す	る	こ	と	が	で	き	た	。	ま	た

E	氏	か	ら	C	社	に	依	頼	し	、	現	行	シ	ス	テ	ム	の	社	内	教	育	資	料	を	
お	借	り	す	る	こ	と	が	で	き	た	。	こ	の	資	料	に	よ	り	、	C	社	が	業	務	
を	行	う	上	で	留	意	し	て	い	る	点	な	ど	を	把	握	す	る	こ	と	が	で	き		
た	。																								
	し	か	し	E	氏	に	よ	れ	ば	、	C	社	の	業	務	の	や	り	方	は	頻	繁	に	変	
更	さ	れ	て	お	り	、	C	社	担	当	者	で	な	れ	ば	シ	ス	テ	ム	の	使	い	方	を	
確	認	す	る	の	は	難	し	い	こ	と	が	分	か	っ	た	。	リ	プ	レ	ー	ス	す	る	シ	
ス	テ	ム	の	運	用	開	始	直	前	に	、	A	社	担	当	者	か	ら	C	社	担	当	者	へ	
の	操	作	説	明	会	が	開	催	さ	れ	る	予	定	だ	が	、	こ	の	段	階	で	操	作	方	
法	の	改	善	要	望	が	出	さ	れ	て	も	、	期	間	的	に	改	修	す	る	こ	と	は	困	
難	と	思	わ	れ	る	。	C	社	担	当	者	が	操	作	し	た	時	に	不	満	を	持	た	れ	
る	よ	う	に	す	る	こ	と	が	残	さ	れ	た	課	題	と	い	え	る	。						

# 論文添削結果（クイック）

2013.03.11 みんなのSE創研  
添削者：佐藤 創

## 【添削情報】

論文提出者：●●●●

問題：平成21年度 問2

## 【免責事項・その他】

本添削結果は、添削者個人の判断によるものであり、所属する会社や組織を代表する意見ではございません。また、本添削結果に即したからといって試験の合格を保証するものではありません。本添削結果の使用の結果生ずるあらゆる損害や被害について添削者は免責されるものとします。本添削結果の著作権は添削者に帰属します。

なおクイック添削は短時間で添削を行うことから、添削結果での指摘の漏れが発生する可能性がございます。通常の添削結果に比べて精度にばらつきが発生する点につきましてはご了承をお願い致します。

## [目次]

1. 論文見出し構成の例
2. 論述すべき内容
3. 添削結果
4. 講評
5. 今後の学習に関するコメント

## 1. 論文見出し構成の例

以下に添削者が考える、本問題の見出し構成の例を示します。

1. 私が携わったプロジェクトの特徴
  1. 1 プロジェクトの特徴
  1. 2 システムの主要な品質目標とその背景
2. 設計工程での品質目標達成のための施策
  2. 1 品質を作り込む施策
  2. 2 品質を確認する活動
  2. 3 察知した問題点
3. 改善の内容及び成果と、残された課題
  3. 1 特定した原因と改善の内容
  3. 2 改善の成果と、残課題

## 2. 論述すべき内容

以下に添削者が考える、問題文から読み取れる題意と、求められる論述内容について、1. 論文見出し構成例に沿って示します。

見出し	論述すべき内容	備考
1. 1	①プロジェクトの概要について端的に述べられていること。 ②プロジェクトの特徴について今後の論述の布石になるような内容を適切に述べていること ⇒むしろ論述に関係しない内容は述べないほうが望ましい。	
1. 2	①品質目標はなるべく具体値としてあげていること ②適切な品質目標を設定したことが伺える背景であること ⇒システムの要件や用途に無関係な品質目標でないこと	
2. 1	①施策によって品質目標が達成できるという根拠とともに、適切な施策について具体的に述べていること ②設計工程開始前に計画した施策であること ⇒設計工程に突入してから事後的に行った施策でないこと	施策は1.2節で述べた品質目標を達成するために妥当だと考えられる根拠を中心に論述する。
2. 2	①品質目標の達成に影響を及ぼすような問題点を、早期に察知するための活動内容であること ②設計工程開始前に計画した施策であること ⇒設計工程に突入してから事後的に行った活動でないこと	
2. 3	①品質目標を達成できない可能性がある（もしくは達成できないケースがある）という問題点について述べていること	
3. 1	①特定した問題の原因を分析した結果、品質を作り込む施策の不備や考慮観点の漏れが根本原因であることを突き止めていること ⇒施策の運用面や、人的側面が根本原因だという結論に至らないこと ②察知した問題と、特定した原因の論述内容が矛盾していないこと ③特定した原因に相応しい改善内容であること	

3. 2	<p>①改善によって良い効果があったことを、品質目標に対する成果を挙げて述べていること ⇒当初掲げた品質目標が達成できたのかどうかについて論述すること</p> <p>②残課題の内容が、これまでに述べてきた内容と因果関係があり、かつ矛盾していないこと ⇒改善施策でも取りきれなかった残課題、または改善施策によって新たに発生した課題などについて、論理的に矛盾なく述べられていること</p>	
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

本問題は、誰にでも近い経験があるという点で書きやすい問題だといえます。注意するポイントとしては、論文全体を通して、「品質目標」、「品質を作り込む施策」、「品質を確認する活動」の3つの関係が常にはっきり分かるようにすることです。何のための「品質を作り込む施策」なのか、何のための「品質を確認する活動」なのか、というところを、常に「品質目標」と関連させて論述することが必要だと思います。

### 3. 添削結果

添削者が考える論文評価結果を、A～Dランクに分けて示します。合格はAランクのみです。

評価ランク	内容	判定
C	内容が不十分である	不合格

※A～Dランクの評価内容は以下の通りです。

- A：合格水準にある
- B：合格水準にあと一步である
- C：内容が不十分である
- D：出題の要求から著しく逸脱している

添削者が考える、各種の詳細な評価項目について、それぞれA～Dランクを示します。

評価項目	評価基準	評価ランク	内容
題意の適切な盛り込み	設問や問題文で求められる題意が適切に盛り込まれていること	C	内容が不十分
論理性	論述に根拠があり、論理的な内容になっていること <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動や考えの背景として、経験や知識、分析結果に裏付けられた根拠が論述されていること</li> <li>・行動した結果やプロジェクトの顛末を書いただけの論文になっていないこと</li> <li>・論述が、具体的・定量的で、かつ論理的であること</li> </ul>	B	合格水準にあと一步
プロマネの創意工夫	プロジェクトマネージャとしての創意工夫・判断基準が盛り込まれていること <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトマネージャらしい総合的な考え方（創意工夫）を論述していること</li> <li>・プロジェクトマネージャの役割や責任を理解した上で、適切な行動等について論述していること</li> <li>・専門用語などは本来の意味や目的を理解して用いていること</li> </ul>	B	合格水準にあと一步
文章表現	文章表現が適切で、かつ理解しやすい文章であること <ul style="list-style-type: none"> <li>・論文としてふさわしい文章表現であること</li> <li>・文章の内容が理解しやすいこと</li> <li>・助詞などの用法に誤りがないこと</li> <li>・誤字脱字がないこと</li> </ul>	B	合格水準にあと一步

## 4. 講評

添削者が考える講評について示します。なお頂いた論文に赤字でコメントを入れておりますので（コメントは本添削結果の末尾に添付）、講評と合わせてご確認頂けますと幸いです。

設問アでは、プロジェクトの特徴をよくとらえた論述になっていた点は良かったと思います。ただし品質目標が適切ではありませんでした。品質目標は、設計工程での品質の作り込みをするための目標値でもあります。また、「ユーザからのクレームが50件以下」という目標では、何をすれば50件以下に収まるのかが設計時点で把握できないため、適切な品質目標とはいえないと考えます。この点についてご確認をお願い致します。

設問イは、品質を作り込む施策の内容が適切ではなかったと考えます。設計内容について関係者にこまめに確認してもらおう、という施策であり、これは「関係者との（非公式の）レビューを多く開催する」といった意味ですから、品質を確認する活動の論述になってしまっていると考えます。

設問ウは、察知した問題の原因を、品質を作り込む施策の漏れに帰結させ、開発標準を改定するなどして品質確保と再発防止を行う、というストーリーで論述することが必要でした。また、活動の結果の論述と指定は、当初掲げた品質目標の達成度合いについて述べる必要がありますが、本論文では、今後の状況によっては品質目標が達成できない可能性もあるという点を述べておりましたので、この点が題意を満たしていなかったと考えます。

## 5. 今後の学習に関するコメント

論文全体としては述べたいことをしっかりと表現できていると感じました。このため、今後の課題としては、題意を適切に把握すること、が最も重要であると感じます。論文は、問題文でおおよそのストーリーの方向性が定められておりますので、それをしっかりと読み取って、求められている論述をしなければなりません。

また論文全体に目次が記載されておりました。目次の作成は、ほぼ必須の対応事項と考えて頂いて構いません。目次がありませんと、筆者が文章で何を述べたいのかが読み手としては理解しにくくなってしまいますので、他の論文などを参考にして目次を作成して頂きたいと考えます。

以上、添削結果のご確認の程よろしくご依頼申し上げます。  
ご不明点などございましたらお気軽にメールにてご連絡を頂けますと幸いです。

以上

論文全体に対する指摘として、目次を論文に付与して、何を述べているのかを読み手に伝わるようにして頂きたいと思います。目次の作成方法については、本添削結果や、他の公開論文を参考にして下さい。

大 手 通 信 会 社 A 社

の 工 事 管 理 シ ス テ ム の 開 発 プ ロ ジ ェ ク ト で あ る 。 メ イ ン

フ レ ー ム で あ る 現 行 シ

この場合は「請負い、」と送り仮名を含めて記載したほうが、文章が読みやすくなります。「請負、」とすると体言止めになってしまい、文章に違和感を感じます。

い た シ ス テ ム に リ プ レ

プ ロ ジ ェ ク ト を 請 負、 私 が プ ロ ジ ェ ク ト マ ネ ー ジ ャ ー と

し て 参 画 す る 。

本 プ ロ ジ ェ ク ト の 特 徴 は 、 第 一 に 高 い ユ ー ザ ビ リ テ ィ

が 求 め ら れ る 点 で あ る 。 こ の シ ス テ ム を 使 用 す る の は 、

A 社 担 当 者 と そ の 協 力 工 事 会 社 の C 社 担 当 者 で あ る 。

A 社 と C 社 は 、 今 回 リ プ レ ー ス 対 象 と な っ て い る シ ス テ

ム を 利 用 し て 、 互 い に 工 事 の 進 捗 を 管 理 し て お り 、 シ ス

テ ム の 操 作 方 法 に 手 間 取 る こ と が 多 い と 工 事 進 捗 に 多 大

な 影 響 を 与 え る 。 さ ら に 、 こ の 開 発 プ ロ ジ ェ ク ト に C 社

は 参 画 し な い た め 、 誰 で も 迷 う こ と な く 操 作 で き る 高 い

ユ ー ザ ビ リ テ ィ を 確 保 す る た め の 設 計 が 求 め ら れ る 。

第 二 に 、 本 プ ロ ジ ェ ク ト 開 発 メ ン バ ー の 約 半 数 が 開 発



品	質	を	作	成	し	た	こ	と	は	、	開	発	者	側																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
で	設	計	す	る	こ	と	は	、	そ	の	都	度	書	面	で	確	認																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
す	る	こ	と	。そ	し	て	、	確	認	し	た	内	容	は	開	発	者	側																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
ロ	ー	を	作	成	し	、	徹	底	さ	せ	て	こ	の	施	策	は	「	品	質	を	作	り	込	む	施	策	」	と	し	て	妥	当	で	は	な	い	と	考	え	ま	す	。	論	文	で	述	べ	て	い	る	施	策	は	「	設	計	内	容	を	都	度	客	先	な	ど	の	関	係	者	に	確	認	し	て	も	ら	う	」	こ	と	、	と	い	う	よ	う	に	読	み	取	る	こ	と	が	で	き	ま	す	。	関	係	者	に	確	認	し	て	も	ら	い	指	摘	を	受	け	て	修	正	す	る	、	と	い	う	こ	と	は	、	レ	ビ	ュ	ー	活	動	に	相	当	し	ま	す	の	で	、	こ	れ	は	「	品	質	を	確	認	す	る	活	動	」	に	等	し	く	な	り	ま	す	。	品	質	の	作	り	込	み	と	は	、	シ	ス	テ	ム	の	品	質	目	標	を	達	成	す	る	た	め	に	、	こ	れ	ま	で	の	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	の	特	徴	な	ど	を	踏	ま	え	て	、	ポ	イ	ン	ト	と	な	る	点	を	設	計	標	準	に	定	め	、	自	分	た	ち	の	設	計	作	業	そ	の	も	の	の	品	質	を	高	め	る	施	策	の	こ	と	で	す	。	設	計	作	業	の	品	質	は	低	い	ま	ま	、	関	係	者	に	レ	ビ	ュ	ー	を	し	て	も	ら	い	な	が	ら	品	質	を	上	げ	る	、	と	い	う	内	容	は	、	品	質	の	作	り	込	み	に	は	繋	が	ら	な	い	た	め	、	論	文	内	容	を	修	正	す	る	必	要	が	あ	る	と	考	え	ま	す	。	し	、	あ	と	か	ら	手	戻	り	が	発	生	す	る	こ	と	も	懸	念	さ	れ	る	。	こ	れ	ら	を	未	然	に	防	ぐ	た	め	に	前	記	の	フ	ロ	ー	を	確	立	し	た	。	ま	た	、	品	質	を	確	認	す	る	活	動	と	し	て	、	成	果	物	の	レ	ビ	ュ	ー	を	多	く	実	施	し	た	。	具	体	的	に	は	、	イ	ン	ス	ペ	ク	シ	ョ	ン	を	行	う	前	に	、	設	計	書	作	成	段	階	か	ら	ウ	ォ	ー	ク	ス	ル	ー	や	プ	レ	ビ	ュ	ー	を	処	理	単	位	で	開	催	生	し	て	い	な	い	か	、	し	た	も	の	に	な	っ	て	こ	れ	ま	で	は	イ	ン	ス	ペ	ク	シ	ョ	ン	を	行	う	こ	と	が	有	効	だ	と	考	え	た	の	で	し	ょう	か	。	ま	た	、	そ	の	問	題	に	対	し	て	な	ぜ	レ	ビ	ュ	ー	を	行	う	こ	と	が	有	効	だ	と	考	え	た	の	で	し	ょう	か	。	そ	う	い	っ	た	プ	ロ	マ	ネ	の	考	え	や	根	拠	の	論	述	を	中	心	に	行	っ	て	頂	く	必	要	が	ご	ざ	い	ま	す	。	結	果	論	だ	け	を	述	べ	る	の	で	あ	れ	ば	、	ど	の	よ	う	な	施	策	も	成	功	裏	に	述	べ	る	こ	と	が	で	き	て	し	ま	い	ま	す	の	で	、	そ	の	よ	う	な	活	動	に	至	る	背	景	や	根	拠	を	基	に	論	理	的	に	述	べ	て	頂	く	こ	と	で	、	読	み	手	は	論	文	か	ら	筆	者	の	プ	ロ	マ	ネ	能	力	を	評	価	す	る	こ	と	が	可	能	に	な	り	ま	す	。	こ	の	よ	う	な	活	動	を	行	お	う	と	考	え	た	背	景	に	は	、	品	質	目	標	の	達	成	に	影	響	を	及	ぼ	す	ど	の	よ	う	な	問	題	が	あ	る	と	考	え	た	か	ら	で	し	ょう	か	。	ま	た	、	そ	の	問	題	に	対	し	て	な	ぜ	レ	ビ	ュ	ー	を	行	う	こ	と	が	有	効	だ	と	考	え	た	の	で	し	ょう	か	。	そ	う	い	っ	た	プ	ロ	マ	ネ	の	考	え	や	根	拠	の	論	述	を	中	心	に	行	っ	て	頂	く	必	要	が	ご	ざ	い	ま	す	。	結	果	論	だ	け	を	述	べ	る	の	で	あ	れ	ば	、	ど	の	よ	う	な	施	策	も	成	功	裏	に	述	べ	る	こ	と	が	で	き	て	し	ま	い	ま	す	の	で	、	そ	の	よ	う	な	活	動	に	至	る	背	景	や	根	拠	を	基	に	論	理	的	に	述	べ	て	頂	く	こ	と	で	、	読	み	手	は	論	文	か	ら	筆	者	の	プ	ロ	マ	ネ	能	力	を	評	価	す	る	こ	と	が	可	能	に	な	り	ま	す	。	こ	の	よ	う	な	活	動	を	行	お	う	と	考	え	た	背	景	に	は	、	品	質	目	標	の	達	成	に	影	響	を	及	ぼ	す	ど	の	よ	う	な	問	題	が	あ	る	と	考	え	た	か	ら	で	し	ょう	か	。	ま	た	、	そ	の	問	題	に	対	し	て	な	ぜ	レ	ビ	ュ	ー	を	行	う	こ	と	が	有	効	だ	と	考	え	た	の	で	し	ょう	か	。	そ	う	い	っ	た	プ	ロ	マ	ネ	の	考	え	や	根	拠	の	論	述	を	中	心	に	行	っ	て	頂	く	必	要	が	ご	ざ	い	ま	す	。	結	果	論	だ	け	を	述	べ	る	の	で	あ	れ	ば	、	ど	の	よ	う	な	施	策	も	成	功	裏	に	述	べ	る	こ	と	が	で	き	て	し	ま	い	ま	す	の	で	、	そ	の	よ	う	な	活	動	に	至	る	背	景	や	根	拠	を	基	に	論	理	的	に	述	べ	て	頂	く	こ	と	で	、	読	み	手	は	論	文	か	ら	筆	者	の	プ	ロ	マ	ネ	能	力	を	評	価	す	る	こ	と	が	可	能	に	な	り	ま	す	。	こ	の	よ	う	な	活	動	を	行	お	う	と	考	え	た	背	景	に	は	、	品	質	目	標	の	達	成	に	影	響	を	及	ぼ	す	ど	の	よ	う	な	問	題	が	あ	る	と	考	え	た	か	ら	で	し	ょう	か	。	ま	た	、	そ	の	問	題	に	対	し	て	な	ぜ	レ	ビ	ュ	ー	を	行	う	こ	と	が	有	効	だ	と	考	え	た	の	で	し	ょう	か	。	そ	う	い	っ	た	プ	ロ	マ	ネ	の	考	え	や	根	拠	の	論	述	を	中	心	に	行	っ	て	頂	く	必	要	が	ご	ざ	い	ま	す	。	結	果	論	だ	け	を	述	べ	る	の	で	あ	れ	ば	、	ど	の	よ	う	な	施	策	も	成	功	裏	に	述	べ	る	こ	と	が	で	き	て	し	ま	い	ま	す	の	で	、	そ	の	よ	う	な	活	動	に	至	る	背	景	や	根	拠	を	基	に	論	理	的	に	述	べ	て	頂	く	こ	と	で	、	読	み	手	は	論	文	か	ら	筆	者	の	プ	ロ	マ	ネ	能	力	を	評	価	す	る	こ	と	が	可	能	に	な	り	ま	す	。	こ	の	よ	う	な	活	動	を	行	お	う	と	考	え	た	背	景	に	は	、	品	質	目	標	の	達	成	に	影	響	を	及	ぼ	す	ど	の	よ	う	な	問	題	が	あ	る	と	考	え	た	か	ら	で	し	ょう	か	。	ま	た	、	そ	の	問	題	に	対	し	て	な	ぜ	レ	ビ	ュ	ー	を	行	う	こ	と	が	有	効	だ	と	考	え	た	の	で	し	ょう	か	。	そ	う	い	っ	た	プ	ロ	マ	ネ	の	考	え	や	根	拠	の	論	述	を	中	心	に	行	っ	て	頂	く	必	要	が	ご	ざ	い	ま	す	。	結	果	論	だ	け	を	述	べ	る	の	で	あ	れ	ば	、	ど	の	よ	う	な	施	策	も	成	功	裏	に	述	べ	る	こ	と	が	で	き	て	し	ま	い	ま	す	の	で	、	そ	の	よ	う	な	活	動	に	至	る	背	景	や	根	拠	を	基	に	論	理	的	に	述	べ	て	頂	く	こ	と	で	、	読	み	手	は	論	文	か	ら	筆	者	の	プ	ロ	マ	ネ	能	力	を	評	価	す	る	こ	と	が	可	能	に	な	り	ま	す	。	こ	の	よ	う	な	活	動	を	行	お	う	と	考	え	た	背	景	に	は	、	品	質	目	標	の	達	成	に	影	響	を	及	ぼ	す	ど	の	よ	う	な	問	題	が	あ	る	と	考	え	た	か	ら	で	し	ょう	か	。	ま	た	、	そ	の	問	題	に	対	し	て	な	ぜ	レ	ビ	ュ	ー	を	行	う	こ	と	が	有	効	だ	と	考	え	た	の	で	し	ょう	か	。	そ	う	い	っ	た	プ	ロ	マ	ネ	の	考	え	や	根	拠	の	論	述	を	中	心	に	行	っ	て	頂	く	必	要	が	ご	ざ	い	ま	す	。	結	果	論	だ	け	を	述	べ	る	の	で	あ	れ	ば	、	ど	の	よ	う	な	施	策	も	成	功	裏	に	述	べ	る	こ	と	が	で	き	て	し	ま	い	ま	す	の	で	、	そ	の	よ	う	な	活	動	に	至	る	背	景	や	根	拠	を	基	に	論	理	的	に	述	べ	て	頂	く	こ	と	で	、	読	み	手	は	論	文	か	ら	筆	者	の	プ	ロ	マ	ネ	能	力	を	評	価	す	る	こ	と	が	可	能	に	な	り	ま	す	。	こ	の	よ	う	な	活	動	を	行	お	う	と	考	え	た	背	景	に	は	、	品	質	目	標	の	達	成	に	影	響	を	及	ぼ	す	ど	の	よ	う	な	問	題	が	あ	る	と	考	え	た	か	ら	で	し	ょう	か	。	ま	た	、	そ	の	問	題	に	対	し	て	な	ぜ	レ	ビ	ュ	ー	を	行	う	こ	と	が	有	効	だ	と	考	え	た	の	で	し	ょう	か	。	そ	う	い	っ	た	プ	ロ	マ	ネ	の	考	え	や	根	拠	の







